



十周年記念特集

全米女性健康調査出版物

<http://www.swanstudy.org>

スワンは十周年目を祝う

全米女性健康調査（スワン）は七つの場所・都市（ミシガン州イプシランティ/ インクスター市、マサチューセッツ州ボストン市、イリノイ州シカゴ市、カリフォルニア州オークランド市とロサンジェルス市、ニュージャージー州ニューアーク市、そしてペンシルバニア州ピッツバーグ市）からの女性の参加で始まりました。この女性のグループは、アフリカ系アメリカ人、白人、ヒスパニック系、中国系と日系の五つの民族グループから選ばれました。スワンの最初の参加者は1996年1月のカリフォルニア州からでした。1997年のリクルート終了までに、3302人の女性がスワンの参加メンバーとなりました。いまやスワンは10周年記念を祝し、過去何年かにわたって参加者の皆さんから提供していただいたデータの要約を分かちあいたいと思います。

スーザン・ジョンソン医学博士（スワン調査主任・準事務局長、アイオワ大学）からの挨拶

「私たちが10年前に予測していたより、スワン調査はさらにより重要な研究調査となってきました。過去4年間に、女性の健康イニシアチブ調査の結果が発表されて以来、科学者、医療関係従事者や女性たちが、スワンでなければ答えられない、更年期についての新しく差し迫った質問を投げかけてきました。そして、スワンの科学者たちは、**参加者の皆さん**がいなければ、これらの質問に答えることはできなかつたでしょう。参加者である皆さん一人一人から貴重な時間を惜しまずにいただいたことが、スワンが存在する所以です。それゆえ、ここで皆さんに“がんばって”もう少しスワンにお付き合い願えればと思います！みなさんが更年期後に差しかかって伴う疑問に対し、私たちは私たちの質問により良い回答が得られているのです。私個人として、そして調査担当者とスタッフを代表し、皆さんの貢献に感謝いたします。」

今春、カリフォルニア州オークランドで行われたプロジェクトディレクター会議でのスワンスタッフ：スワンの成功の裏方である、献身的で勤勉なグループ。よく見れば、ご存知の顔が見えるかも。

科学会議の結論

更年期に関連する症状の管理に関する国立衛生研究所の科学会議が、今年の3月にワシントンD. C. で行われました。ここにあげられた結論は、過去12年間国立老化研究所でスワンのプログラム役員である、シェリー・シャーマン博士によって提供されたものです。シャーマン博士はスワンのような調査の重要性を認識し、スワンを始動させた国立衛生研究所のイニシアチブ（積極的取り組み）を執筆した科学者の一人でした。更年期に関連する症状についての結論は以下のことです：

- 更年期の過渡期に起因する症状：ほてり、寝汗、膣の乾燥と睡眠障害
- 多くの女性は症状が少ししかないか、まったくない：これらの女性は医療を必要としない。
- 手術、化学療法が放射線療法によって更年期をもたらされた女性は、よりわずらわしい症状を経験し、そしてかつ安全で効果のある治療を受けるに値する。

最終報告を読みたい方は、以下のウェブサイトまでどうぞ：

http://consensus.nih.gov/ta/025/menopause_final_052505.htm

